

膣分泌物培養検査について

当院では産道の感染を前もって把握するために全妊婦さんを対象に妊娠 24 週と 36 週頃に膣分泌物の培養検査を行っております。子宮頸管（子宮の入口の部分）や膣に細菌感染があると「おりもの」や外陰部のかゆみや違和感を感じたり、破水や早産を引き起こすことがあります。妊娠 24 週頃の膣分泌物検査は、早産や早い時期の破水を予防するために特に重要です。また、妊娠 36 週の検査は、分娩に際し、子宮や産道に感染があると、赤ちゃんの肺炎や髄膜炎などの感染症の原因となることがあるため、その予防のために行われます。

もともと産道には多くの雑菌が存在していますが、そのほとんどは赤ちゃんの感染症の原因にはなりません。しかし、その雑菌の中で **B 群溶連菌 (GBS)** は妊婦さんの 10% 位の膣内に常在的に存在するとされています。分娩の際に赤ちゃんへの移行率も高いとされていますが、99% の赤ちゃんは無症状で経過します。しかし、その菌によって赤ちゃんに感染症が起きると重症化しやすく、肺炎・髄膜炎を起こすと重篤な合併症を惹き起こすことがあります。そのため、当院では特に B 群溶連菌が検出されたときには注意して管理しています。膣分泌物培養検査で 1 回でも B 群溶連菌が検出された場合は分娩直前に抗生物質の点滴を行います。妊娠中には基本的に治療は行いませんが症状があるときは適時対応しています。